

広島県臥竜山麓におけるミズラモグラ *Euroscaptor mizura* 生息地の植生

上野吉雄¹⁾・佐久間智子²⁾・白川勝信³⁾・小宮啓吾⁴⁾

¹⁾ 広島県立廿日市特別支援学校・²⁾ 中外テクノス株式会社・³⁾ 高原の自然館・⁴⁾ 東和環境科学株式会社

The Vegetation at Habitat of the Japanese Mountain Moles *Euroscaptor mizura* in Foot of Mt. Garyu, Hiroshima Prefecture

Yoshio UENO¹⁾, Tomoko SAKUMA²⁾, Katsunobu SHIRAKAWA³⁾, Keigo KOMIYA⁴⁾

¹⁾ Hatsukaichi School for Disadvantaged Children, 877-2 Miyauchi, Hatsukaichi-shi, Hiroshima 738-0034,

²⁾ Chugai Technos Co. Ltd., 9-12 Yokogawa-Shinmachi, Nishi-ku, Hiroshima 733-0013,

³⁾ Natural Museum of Geihoku, 119-1 Higashi-Yawatabara, Kitahiroshima-cho, Hiroshima 731-2551 and

⁴⁾ Towa Environment Science Co. Ltd., 6-5 Funairi-machi, Naka-ku, Hiroshima 730-0841

Abstract : *Euroscaptor mizura* recorded from Kitahiroshima-cho, Hiroshima prefecture, on July 2008. We report the habitat vegetation of *E. mizura*.

©2009 Kitahiroshima-cho Board of Education, All rights reserved.

ミズラモグラは本州の青森県から広島県にかけて局地的に分布する日本固有種である(阿部ほか 2005)。県内では、1954年11月16日に広島県庄原市比和町で採集されたミズラモグラを新亜種、ヒワミズラモグラ *Euroscaptor mizura hiwaensis* Imaizumi として記載された(今泉 1955)。その後、1962年6月16日と1968年7月31日に庄原市比和町で採集され(湯川 1968)、1990年7月12日に山県郡北広島町の臥竜山山頂付近で死体が取得された(金井塚ほか 1991)。ミズラモグラは生息地が局地的で日本固有種であることから、環境省により準絶滅危惧種に(環境省 2002)、広島県により、絶滅危惧種に指定されている(広島県 2004)。筆者らは、広島県北広島町が2007年から実施している北広島町自然学術調査において、北広島町で2例目のミズラモグラの生息を確認したので周辺の植生とあわせて報告する。

今回ミズラモグラが確認された臥竜山(西中国山地, 34° 41' N, 132° 10' E, 1,223m)は広島県北西部に位置し、山頂部にはブナ *Fagus crenata* 原生林が見られる。ミズラモグラを確認したのは標高約850mの北側山麓部である(図1, 図版1-A)。

2008年7月6日の14:00ころ、臥竜山の標高約850mの北側山麓部でミズラモグラの死体を発見した(図版1-C)。死体まだ新しく、下腹部に傷が見られた。おそらくイタチかテンに捕殺されたようである。

以下にこの個体の身体各部の測定値を記す.

ミズラモグラ *Euroscaptor mizura*, 北広島町東八幡原, 6. IIV. 2008

体重: 17g

頭胴長: 93mm 尾長: 21mm 尾長/頭胴長 $\times 100 = 22.6$ (%)

前肢: (幅) 11mm (長) 15mm

後肢: 11mm

体色: 全身黒色

歯式: $i: 3/3$ $c: 1/1$ $p: 4/4$ $m: 3/3 = 44$

以上の形態的特徴から, このモグラをミズラモグラと同定した. なお, この個体の剥製標本と頭骨標本は芸北高原の自然館に保管してある (図版 1-D, E).

植生調査はミズラモグラが確認された地点周辺の異なる林分で方形区を設置し, 優占種調査を行った. 方形区は各林分に応じて $15\text{m} \times 15\text{m}$ もしくは $10\text{m} \times 10\text{m}$ とした. 調査は 2008 年 10 月に行い, 各層の高さと植被率及び主な構成種を記録した. また, 土壌の O 層と A 層の厚さを計測した.

優占種調査の結果を表 1 に示す.

調査地点 1 はミズラモグラが確認された付近であり, コナラとアカマツの混交林であった. 林床はチュウゴクザサで被われており, 土壌の O 層は 2.5cm, A 層は 2cm であった (図版 1-C).

調査地点 2 はミズラモグラが確認された地点から約 8m 離れた場所であり, 凹地上に約 25m の幅でハンノキ林が成立していた. 所々にはミズゴケが見られ, 湿原生の種が生育していた. 土壌の O 層は

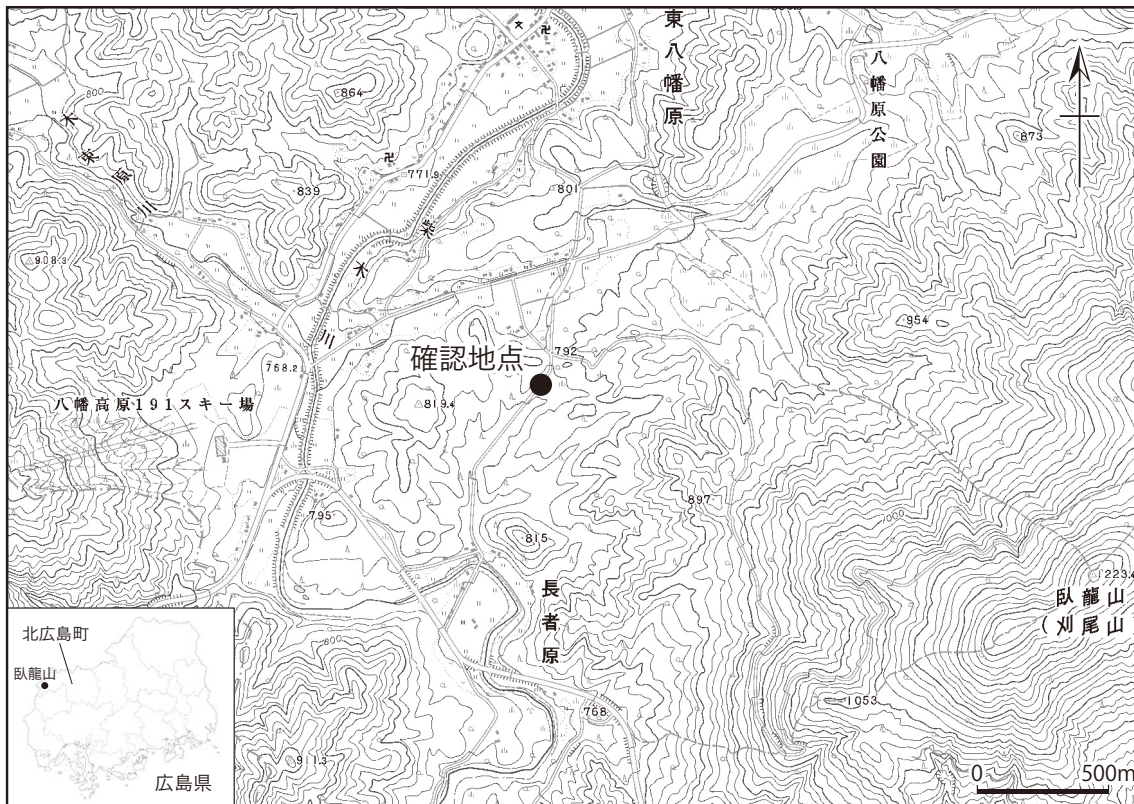


図1 ミズラモグラの確認地点

表1 ミズラモグラ確認地点周辺の植生

調査地点	O層 (cm)	A層 (cm)	階層	高さ (m)	植被率 (%)	構成種
1	2.5	2	高木層	23	90	コナラ, アカマツ
			亜高木層	13	15	コナラ
			低木層	3	10	コマユミ, ナツツバキ, タンナサワフタギ, ツノハシバミ, ヤマウルシ, ネジキ, オトコヨウゾメ, コハウチワカエデ
			草本層	1.5	100	チュウゴクザサ
2	6	15以上	高木層	14	70	ハンノキ
			亜高木層	10	10	ハンノキ
			低木層	3	30	イヌツゲ, コマユミ, ウワミズザクラ, レンゲツツジ, ツルウメモドキ, ミヤコイバラ
			草本層	0.8	100	マアザミ, アケボノソウ, ワレモコウ, ヒメシロネ, クサレダマ, アギスミレ, アブラガヤ, チダケサシ, ヌマガヤ, サトメシダ, トリカブト属の一種, クサソテツ
3	5	3	高木層	23	75	アカマツ
			亜高木層	11	50	コナラ
			低木層	4	60	ウツギ, コマユミ, サワフタギ, クロモジ, リョウブ, ヤマウルシ, ナツツバキ, ソヨゴ, コシアブラ, コハウチワカエデ
			草本層	0.8	30	ソヨゴ, シシガシラ, チュウゴクザサ, イワガラミ, イヌツゲ, ショウジョウバカマ, アセビ, クマイチゴ, タガネソウ, ゼンマイ, ヒカゲノカズラ, チゴユリ

6cm, A層は15cm以上であった。

調査地点3はミズラモグラが確認された地点から約35m離れた場所であり、調査地点2を含むハンノキ林との境界には小川が流れていた。林床が開けたアカマツ林であり、土壌のO層は5cm, A層は3cmであった。

ミズラモグラの生息は本州の標高1,000m以上の山岳地帯の針葉樹林で確認されることが多かった(横畑1998)。今回、ミズラモグラが確認されたのは、標高850mの落葉広葉樹林である。これまでミズラモグラ生息地の植生についての詳細な報告はなされていないので、本報告が初めてのものであろう。

本調査を行うにあたり、北広島町自然学術調査の機会を与您にいただいた、門柵利男教育長をはじめとする北広島町教育委員会の方々はこの場を借りて感謝の意を表す。

引用文献

- 阿部 永・伊藤徹魯・前田喜四雄・米田政明・石井信夫・金子之史・三浦慎悟 2005 日本の哺乳類〔改定版〕206pp. 東海大学出版会 秦野
- 広島県（編） 2004 改訂・広島県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータブックひろしま 2003） 515pp. 広島県
- 今泉吉典 1960 原色日本哺乳類図鑑 196pp. 保育社 京都
- 金井塚 務・白水 貴・星野 健 1991 広島県のミズラモグラについて 比和科学博物館研究報告 29：47-53
- 環境省（編） 2002 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックー哺乳類 自然環境研究センター
- 上野吉雄・足利和英・保井浩・桑原一司 1996 広島県芸北町の哺乳類 高原の自然史 1：395-441
- 横畑泰志 1998 食虫類の自然史 391pp. 比婆科学教育振興会 庄原
- 湯川 仁 1968 比和産のミズラモグラについて 比和科学博物館研究報告 12：18-19
- 湯川 仁・中村慎吾 1982 広島県の哺乳類 広島の生物 547pp. 第一法規 東京

2008年12月16日受付；2009年12月17日受理

図 版 1

- A：ミズラモグラの確認地点 2008年7月6日
- B：調査地点1の土壌 2008年10月26日
- C：ミズラモグラ確認時の状況 2008年7月6日
- D：ミズラモグラの頭骨. 高原の自然館蔵
- E：モグラ3種の比較. 上からコウベモグラ, アズマモグラ, ミズラモグラ. いずれも高原の自然館蔵

图 版 1

